

谷津ミュージアム事業推進専門家会議 会議の概要

1 会議の名称

平成19年度 第2回谷津ミュージアム事業推進専門家会議

2 開催日時

平成20年1月24日(木) 午後2時から午後4時40分まで

3 開催場所

我孫子市教育委員会4階会議室

4 出席又は欠席した委員その他会議に出席した者の氏名

(出席委員)

中村 俊彦

平岡 考

村田 澄江

(欠席委員)

浅間 茂

湯澤 規子

森尾 晴香

元木 恵

(事務局)

渡辺次長

大畑補佐

佐藤

鈴木

染谷

5 議題

環境の配置計画

6 公開・非公開の別

公開

7 傍聴人

0名

8 会議の内容 環境の配置計画

事務局から説明。

平成 19 年 8 月に、谷津ミュージアムの会会員や谷津学校友の会会員で、谷津ミュージアムの土地利用現況図を作成した。11 月には、この現況図を基に、当面 5 年先くらいまでの谷津の環境配置計画図を作成した。この計画図は、この場所は草地としたい、湿地や水辺としていきたい等、普段保全活動をしている方たちの意見を盛り込んだものであるが、基本的には現況を活かした配置となった。しかし、担い手が少ない状況では、現状のままでも良いのではないかといった意見もあった。

この環境配置計画図について、ご意見を伺いたい。

委員から次のような意見があった。

- ヘイケボタルをもっと増やしたいのか、こういう植物は増やしたいのか又は減らしたいのか、動物はどうしたいのかなどを一覧表にしてみればよい。特に鳥などの動物を中心に作成してみてはどうか。
- 谷津の目標生物としては、ウナギ・フナが遡上してくるようになると素晴らしい。ウナギが遡上するには、水系はどのようにしたらいいのか検討してみる必要がある。魚道を設置すれば、いろいろな魚が遡上してくると思う。また鳥は、サシバ・ノスリ・アオバズク・フクロウ・タマシギがいると良い。ニホンアカガエルも重要だが、トウキョウダルマガエルも目標生物にした方が良い。トウキョウダルマガエルにとっては、水路が重要である。昆虫としては、オオムラサキがいると良い。エノキの良いものがあれば来ると思う。
- ニホンアカガエルやヘイケボタルは、どのような管理をすれば増えるのかという手法はある程度確立されたと思う。次のグレードアップをするために、当面 5 年後、10 年後の目標として何を指標生物にするか決めた方が良い。
- 昔、谷津にあったもの（生き物だけでも良いから）を具体的に図面に落としてみる。例えば、昭和××年頃、××でウナギが捕れたなど。
- 湿地の土を掘り起こしてみると、いろいろなものが出てくる。県内の他の地域では、土を掘り起こした後、ノハナショウブが出てきたという場所もあった。谷津ミュージアム内でも、意図的に攪乱して土を掘り起こしてみるのも良いと思う。
- 適正な管理で復活するものなら良いが、それでも復活しないものは、移植も必要だと思う。（どこから移植するかは近隣のものをを用いる等慎重に検討しなければいけないが）例えば、カタクリ、エビネ、ノハナショウブなど。せつかく谷津の環境がもとに戻ったとしても、復活させるものの種がなければ復活しない。

- 谷津上流部は林をあつくしても良いと思う。最上流部には、ため池をつくり、水を浄化させて下流に流すと良い。水路は土水路又は木杭の水路が望ましい。
- 堆肥場を増やすことにより、カブト虫を多くし、子どもたちにもっと谷津で遊んでもらうと良い。
- もっと小学校に谷津の田んぼを提供できるような体制をつくると良い。(谷津ミュージアムの会がサポートするような体制など) 教育の面からも、谷津を財産として活用していくのが望ましい。また、実際田んぼをやる時には、田んぼ管理・作業指導の面からも農家がボランティアとして関わっていただくことが必要である。
- 谷津ミュージアムで何を守っていくかというレベルから、何をより良くしていくかというレベルへ目標をシフトしていく必要がある。

【まとめ】

- ただ単に草地にしたい、水辺にしたいだけでなく、より具体的な目標・夢を描いた方が良い。
- 谷津ミュージアムにおける現況の生き物マップを作成してみる。それをベースに、まず生き物のためにどのような環境を配置していくか検討する。